

人権を 考ええる

Part2

長門市では、「長門市人権教育推進委員会」を中心として、市民一人ひとりの人権が尊重された心豊かな地域社会の実現に向け、地域に密着したきめ細かい人権教育・人権啓発活動を推進しています。

今年度は昨年度に引き続き、重点課題として「**子どもの問題**」を取り上げ、3回のセミナーとフェスティバルを開催しました。



第1回長門市人権教育セミナー



▲講演する永井事務局長

■とき 7月7日(日)
■ところ ラポールゆや
■参加者 約130人
「メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン」福岡支部の永井啓子事務局長が『**夢の力**』〜**命の輝き**〜

という演題で講演しました。難病と闘う子どもたちが、心に描いている夢を実現するためのボランティア活動の話は、参加者に多くの感動を与えました。

《参加者の感想》

●1時間半という時間があっという間でした。命の輝く時間はどの人にも平等であること、夢を持つことが生きる力になることなど、たくさんの気付きがありました。

●「夢をかなえるために生まれた」子どもたち一人ひとりの笑顔がとても印象に残りました。涙が出ました。

●難病であっても前向きに生きてい

く子どもたちの姿、そして、その夢の実現に力を貸しておられるメイク・ア・ウィッシュの方々の方に心打たれました。

●「メイク・ア・ウィッシュ」という団体があるということも初めて知りました。難病の子どもたちの日常や、夢をかなえるためのボランティアの人たちのことを知ることができてよかったです。

●講演を聞いて、当たり前のことに感謝することを忘れていた自分に気付かされました。また、私にもできることがもっとあるのではないかと考えさせられました。病氣と闘いながらもけなげに頑張っている子どもたちからたくさんのパ

第2回長門市人権教育セミナー

■とき 8月29日(木)
■ところ 三隅公民館
■参加者 28人

日本全国で戸籍の不正取得に関わる事案が発生している中、個人情報保護という視点から人権について考える機会として開催しました。山口地方事務局秋支局の兼高保志支局長により「**戸籍と人権**」というテーマで講演を実施しました。

また、戸籍の不正取得に関連して、長門市で取組が始まっている「**登録型本人通知制度**」について、藤井孝

之市民課長が、この制度の概要について説明をしました。

《参加者の感想》

●職業柄、タイトルに興味を持ち参加しました。講演の内容については、これまでの自分の意識を変えるもので、もっとゆっくり聞いてみたいと思いました。自分に関係ないと思いがちなことにも、もっともっと興味を持ち、知ることが人権問題を解決していくのだなと思いました。

●特に同和問題の、身分に関する歴史を確認していくことがとても興味深く、勉強になりました。

長門市人権フェスティバル

■とき 10月14日(月)
■ところ 長門市中央公民館
■参加者 約180人



▲独特の衣装の小野田教授

冒頭、「人権の花」運動協力校として、浅田小学校と油谷小学校に感謝状が贈られました。また、第33回全国中学生人権作文コンクール秋地

区大会で入賞した仙崎中学校3年の嶋谷優一さんと同校2年の福島愛羅さんが表彰を受けました。

続いて、表彰を受けた嶋谷さんが受賞した作文を披露しました。祖母が脳梗塞になった経験から、「体の不自由な人の手助けがさりげなくできる将来にしたい」と述べました。

講演では、大阪大学大学院の小野田正利教授が「**子どものために手をつなぐ**」保護者と学校そして地域のいい関係づくりへ」と題して講演を行いました。小野田教授は、現在の学校や地域、保護者の置かれた状況を分かりやすく話しました。

《参加者の感想》

●一面を見るのではなく、その家庭や保護者の考えの背景を考えることと、保護者同士のつながりが大切と感じました。そのためには、心のゆとりが必要ですが、なかなか難しいなと日々感じています。

●今の世の中、人と関わるのが怖いと思うこともあります。一歩進む勇気がやはり必要だと思いました。「子どものすることには理由がある」という一言が心に残りました。

●厳しい社会情勢が続いているためか、他人に厳しく当たる風潮が強くなっていると感じます。自分の行動も振り返り、お互い様という気持ちをもって行動できればと思います。

第3回長門市人権教育セミナー

■とき 12月1日(日)
■ところ 日置農村環境改善センター
■参加者 約150人

地元で活躍する日置女声合唱団「白い風車」による合唱でセミナーはスタートしました。

「絵てがみ」コンテストでは、長門市青少年育成市民会議日置支部より日置地区の小・中学生9人が表彰されました。



▲身近なできごとから話をした霜川准教授

続いて行われた意見発表会では、日置地区の小中高生の児童・生徒が「人権」について、地域の人たちのふれあいやあいさつ体験を通して感じたことなどを発表しました。

講演会では、山口大学教育学部の霜川正幸准教授が「**山口市内でこんな2組の親子に出会いましたけれど**」と題して講演しました。霜川准教授は、身近なできごとや場面から「子ども」と人権、「子ども」の人権について、ユーモアを交えながらわかりやすく説明しました。

《参加者の感想》

●子どもたちの意見発表を聞き、大変びっくりした信念を持って生きていくことが分かりました。マスコミで大きく報道されている現実は一握りであり、すばらしい子どもたちが育っていることに安心しました。

●会場に展示されていた絵てがみ



▲長門市人権教育推進委員会の五十嵐委員長

来年度も、引き続き人権教育に取り組みます。

意見や要望がありましたら、生涯学習スポーツ振興課（TEL231-1259）までお願いします。